

確認調査結果【神奈川県】

1 確認調査（動物）	1-1
1-1 確認調査（鳥類（一般鳥類、希少猛禽類））	1-1

平成 27 年 6 月

東海旅客鉄道株式会社

1 確認調査（動物）

神奈川県知事の意見等を受けて環境影響評価書（資料編）に記載した確認調査を実施した。
確認調査の項目を表 1-1 に示す。

表 1-1 確認調査の項目（動物）

調査項目		備考
鳥類	一般鳥類	ミゾゴイ 神奈川県知事の意見により実施
	希少猛禽類	オオタカ（小倉ペア）、オオタカ（長竹ペア）、オオタカ（鳥屋ペア）、ノスリ（青山Aペア）、ノスリ（鳥屋Aペア）、ノスリ（鳥屋Bペア）、ノスリ（牧馬ペア） 事業により影響の可能性があるため実施

1-1 確認調査（鳥類（一般鳥類、希少猛禽類））

神奈川県内の調査で確認され、神奈川県知事から意見のあった鳥類（ミゾゴイ）については、相模原市内の調査で個体が確認された橋梁、非常口（山岳部）及び変電施設付近を対象に調査範囲を設定した。

準備書において保全対象種とした鳥類（希少猛禽類）については、調査で個体が確認された小倉地区、長竹地区、青山地区、鳥屋地区、牧馬地区の橋梁、非常口（山岳部）、車両基地及び変電施設付近を対象に調査範囲を設定した。

1-1-1 調査方法

調査の方法を表 1-1-1-1 に示す。

表 1-1-1-1 動物の調査方法

調査項目		調査方法	
鳥類	一般鳥類（ミゾゴイ）	任意確認	調査地域内を任意に踏査し、出現した鳥類の種名を記録した。重要な種が確認された場合は、確認位置、個体数、行動等を記録した。生息確認を目的とした夜間調査も実施した。
	希少猛禽類	定点観察法	猛禽類の営巣が考えられる地域において繁殖地特定のための行動の確認を目的として、設定した定点において簡易無線機による情報交換を行いながら、8～10倍程度の双眼鏡及び20～60倍程度の望遠鏡を用いて、飛翔行動等を確認した。
		営巣地調査	古巣及び営巣木の確認を目的として、生息の可能性が高い林内を歩き、樹林の状況、巣がかけられている営巣木の状況（樹種、樹高、胸高直径、地上〇mに営巣等）、巣の形状（直径、厚さ）、周辺の地形、植生等を記録した。

1-1-2 調査期間

動物の確認調査は表 1-1-2-1 に示す時期に実施した。

表 1-1-2-1 調査期間

調査項目		調査手法	調査実施日
鳥類	一般鳥類（ミゾゴイ）	任意確認 （夜間調査：日没後 2～3時間）	平成26年4月14日～15日
	希少猛禽類	定点観測法 営巣地調査 （日中に実施）	平成26年3月20日～22日
			平成26年4月14日～16日、21日～23日
			平成26年5月7日～8日
			平成26年6月2日～3日
			平成26年7月1日～2日
			平成26年8月1日

1-1-3 調査結果

(1) 鳥類（ミゾゴイ）

ミゾゴイは、相模原市内において合計1例、相当離れた地域で鳴き声が確認された。今後は得られた結果をもとに、各鉄道施設の詳細な計画を決めていく中で、専門家の技術的助言を踏まえながら、環境保全措置を適用する個別の箇所や範囲等を具体的に決定していく。なお、環境保全措置については、中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価書【神奈川県】（平成26年8月）「表9-4-1 動物に関する環境保全措置の検討結果」から検討する。

(2) 鳥類（希少猛禽類）

希少猛禽類の確認調査は、事業により影響の可能性のあるペアを対象に実施している。確認状況を表 1-1-3-1 に示す。なお、当該ペアについては事後調査を実施するまでの間、確認調査を継続的に行う予定である。

表 1-1-3-1 確認調査における猛禽類の確認状況（平成 26 年 3 月～8 月）

ペア名	確認状況
オオタカ（小倉ペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地での繁殖は確認されなかった。周辺での飛翔、繁殖行動がみられたが、繁殖は確認されなかった。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
オオタカ（長竹ペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地での繁殖は確認されなかった。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
オオタカ（鳥屋ペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地の付近で新たに営巣地を発見し繁殖を確認した。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（青山Aペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地での繁殖を確認した。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（鳥屋Aペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地の付近で新たに営巣地を発見し繁殖を確認した。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（鳥屋Bペア）	神奈川県内の調査で平成 25 年までに確認した営巣地では落巣を確認したため繁殖は確認されていないが、周辺においてノスリ幼鳥と推定される個体の鳴き声を確認された。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。
ノスリ（牧馬ペア）	営巣地を改変の可能性のある範囲から約 450m 離れた場所で確認し、繁殖も確認した。今後も確認調査を実施し、専門家の意見を踏まえ必要に応じ環境保全措置を実施し、事業による影響を低減するよう努める。